

令和 6 年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	海田町立海田東小学校	校長	齊藤 知法	生徒指導主事	吉岡 康行
取組事例名	『 東小まつり 』				

1 取組の設定

取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
児童会活動である「東小まつり」をたてわり班活動として実施し、異年齢の児童同士が協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立てて役割を分担し、協力して運営することにより、自主的、実践的に取り組もうとする態度を育てていく。	児童が、毎年継続して取り組み、楽しみにしている「東小まつり」に参加することにより、友達同士の絆を深めたり、思い出を共有したりして、自己存在感を高めていく。また、たてわり班活動で異学年との交流を行うことにより、低学年への思いやりや高学年への尊敬の気持ちを抱く態度を育てていく。



2 展開

取組の具体的内容	取組の創意工夫
1 テーマ「パワー全開 助け合い 楽しい思い出 東っ子」 「東小まつり」のねらいを達成するために各学級からテーマを募集して設定した。 2 内容 たてわり班に分かれて手作りのゲームコーナーを楽しむ。スタンプラリーカードを持参し、学校内に開設した各コーナーを回り、ゲーム体験後は、各コーナーでスタンプを押してもらう。 3 ゲームコーナーの設定の工夫 ・ だれもが簡単に、何度でも楽しめ、準備が簡単なもの ・ 可能な限りリサイクルできるものを利用し、待ち時間が長くないようルールなどを工夫し、ごみを出さないようなもの 4 ゲームコーナーの決定と構成について ① 全校から募集したゲームコーナーを参考にして、児童委員会が9種のゲームコーナーを選定する。 ② たてわり班の班長が9ゲームコーナーの担当班の6年生が最終決定する。	児童にめあてをもたせるために すべての取組において、6年生をリーダーに「どうすれば、たてわり班の全員をまとめ楽しませることができるか」を考えさせ、計画・立案させる。各班担当教員は、6年生のリーダーを支援していく。 児童の意欲を高めるために それぞれの児童が活動の中で、他の児童を楽しまそうと工夫することで、自分自身の成長や友達のよいところを見付け、自他のよさを認め合うことのできる児童の育成を図り、児童の自己肯定感を高める。 児童の頑張りを認め、価値付けるために 本行事を終えた後、自分自身を見つめ直し成長できたこと、たてわり班としてがんばったこと、他学年の友達のよいところなどを「キラキラカード」に書く。それを、学年掲示、全校掲示、校内放送などで発信し、互いに認め合う機会を創生する。



3 成果と課題

本行事実施後に行った児童アンケートにおいて、「自分には良いところがある」と考えている児童の割合が82%、「あいさつや会釈をしている」が90%、「学校は楽しい」が86%であり、どの学年も肯定的に回答している児童の割合が高いことから、多くの児童が学校生活を楽しんでいることが伺える。 今後も、児童会活動や縦割り班活動を本校の特色として継続していくことにより、児童にとって学校生活をより楽しいものにしていきたい。課題としては、本校の不登校児童が12月末現在、11名であり、昨年度と同傾向で減少傾向になっていない。今後も児童の自己肯定感を高める行事を工夫するとともに、配慮が必要な児童への取組を保護者と連携し、不登校対策を学校全体で取り組んでいく必要がある。
